

健康教育

健康優良学校特集

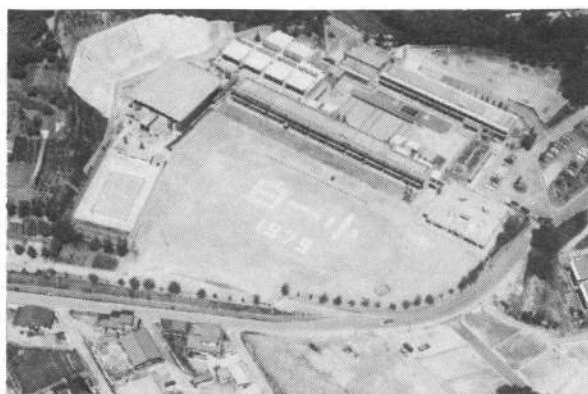
- ☆ 鍛えよ心と体……………2
 - 白一小の子どもは
 - 健康で品性の高い子どもです
- ☆ 心身ともにたくましい ふくのっ子の育成…5
 - 学校・家庭・地域ぐるみで—
- ☆ 黒ぼくの大地にたくましく育つ大栄教育……10
 - すなおで、たくましく、心豊かな子ども—
- ☆ 心豊かでたくましい子を育てる元城教育…14
 - 自ら進める生活づくり—
- ☆ 全児童8名、健康優良学校になって…………18
- ☆ 保健室だより……………22

昭和54年度 健康優良学校全国特別優秀校の代表
学校長、PTA会長、6年生代表各2名

朝日新聞社提供



NO 79



福島県白河市立白河第一小学校

校長 大山 章

鍛えよ心と体

白一小の子どもは

健康で品性の高い子どもです。

1. はじめに

——20世紀をたくましく生きぬかせる。

真の学力は、健全な身体から——

本校は昭和46年に市街地から現在地に新築移転したが、通学距離が遠い、上り坂で、とかいうことを理由に自家用車に送迎されて、登下校する子どもがふえてきた。

そのために肥満傾向の児童が目立ち、また朝の会などに貧血で倒れるような子どもが出てきた。これを先生方は大変憂慮し、昭和49年から教育目標に「健康でたくましい子どもの育成」を位置づけ、白一小の子どもをがんばる子どもに育てたいと、健康教育に取り組んできた。

2. 本校の教育方針

「教育環境の最大のものは教師である」そして「どこを切っても血の出る教育を推進しよう」と全教師一丸となって日夜教育の道にいそしんでいる。

そして教育目標

白一小の子どもは

- | | | |
|---|--|--------------|
| → | <ul style="list-style-type: none">○考える子どもです。○心ゆたかな子どもです。○がんばる子どもです。○じょうぶな子どもです。○はたらく子どもです。 | } 協力する子どもです。 |
|---|--|--------------|

3. 全国特別優秀校受賞に至るまで

- 昭和49年業間体育を重視し持久走の実施と家庭における食生活改善にもはたらきかけをする。
- 昭和51年度からはむし歯予防対策にも力をいれ、家庭での歯みがきは勿論、学校給食後の歯みがき指導をおこない、その成果として、51、52、53年と3年連続、よい歯の学校「優秀校」として県表彰を受賞、さらに54年度は「特別優秀校」に選ばれた。
- 体格の向上を目指す一環として給食指導にも力を入れ、食堂給食におけるマナー、バランスのとれた栄養摂取指導により、53年度給食優良校として文部大臣賞を受賞した。
- また保健安全教育と体力の向上においては「ふれあいの丘」を中心とした体育活動が実を結び53年度に

において健康優良学校県1位、54年度においては学校保健優良校として、文部大臣より表彰を受け、そして全日本健康優良学校「全国特別優秀校」の栄冠に輝く。さらに交通安全優良校として、県知事賞、そして去る11月25日に日本水泳連盟より全日本水泳優良校として表彰を受けた。



朝日新聞社で表彰を受ける

4. 本校の特征的活動

(1) 「ふれあいの丘」にみられる活動

「ふれあいの丘 にみられる教育環境づくりと…」これは今回、全日本健康優良学校「全国特別優秀校」としての表彰状の文面の一部である。一校庭の西側の小高い山の斜面を切り開いて1000坪に及ぶ敷地の六つの広場に22のフィールドアスレチックをPTAの奉仕作業、先生方の勤労奉仕でつくった。

ふれあいの丘では、毎日、始業前のトレーニング、2校時と3校時の業間、そしてゆとりの時間における「ふれあい活動」の時間に

- 楽しい給食としての野外給食の場に
- 地域方部会毎の親子、学年毎のいも煮会に
- 夏休みの親子キャンプに



ふれあいの丘の持久走

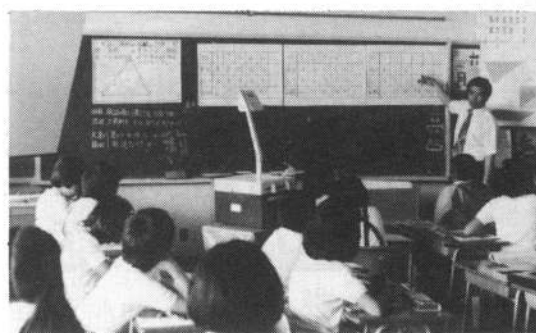


ふれあいの丘の運動

(2) 肥満児対策

まず「食事療法」「運動療法」の採用、2学年にそれぞれ1学級ずつ22人が健康学級に入級、能力差、個人差に応じた徹底した指導をおこなっているが、その指導の効果があらわれ、来年度は全部普通学級に復帰出来る見込みである。

(3) 課題追究学習



「水源池の高さまで水道の水は出る」という原理にしたがい子どもの学力は教師の教材研究の高さまで引き上げることができる……児童は自分に問いかけ問いかけ、あくなく追究によって真実を探究、獲得していく、教師と子どもとともにつくる授業の組織をめざしている。

今年度は10月24、25日の2日間にわたって第13回教育実践研究公開をおこない、約750人の先生方の参観を得て発表した。

(4) ふれあい活動

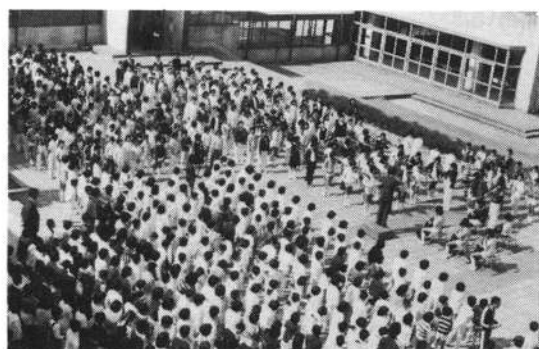
子どもの非行化の原因をさぐると、友情の欠如、親と子の対話の不足、教師とのふれあいの場の喪失などが浮かびあがってくる。そこでスキンシップの高揚、教師と児童、児童相互のふれあい活動を活発にしようとして5年前から学校教育活動の重点施策の一つに加えた。



ふれあい活動の一コマ

「人間と人間とのふれあい、自然と人間とのふれあう時間」そして「教師と子どもがつくる時間」として、

ア、全校活動—全校体育、全校音楽、そして全校ダンスがある。



全 校 音 楽

イ、学年、学級のわくを越えた、たての関係で他学年との交流にまで発展させた。

その形態は

- 自然とのふれあい
- 作業
- 製作活動
- 会食の楽しみ

5. 学校安全と環境衛生

- (1) 児童の冒険心をそそる「ふれあいの丘」では絶えず事故防止に気を配らなければならない。

○毎日の点検と処置は消極的な方法である。それぞれの機能をもつアスレチックを使っている運動は事故防衛の積極的な方法でもある。このふれあいの丘の施設を使っている事故はまだ一件もない。

- (2) 児童の登校はペア登校で

○従来は方部毎に集団で登校したが、市街地から登校してくる子どもの交通事情を考え、隣接の上下学年の子どもが2～3人のペアで登校している。勿論、交通事故は一度も発生していない。



ペア登校のようす

- (3) 教職員の健康

白一小の教職員であることに誇りをもつ教師は研究熱心で妥協を許さない……納得ゆくまでの教材研究などで勤務は激務である。それだけに先生方の健康管理には細心の気を配っている。

○職員室には事務机がなく、6組の応接セットで休憩、会食、団らん、保護者との応接などに使われる。

○学年室における学年打合わせ、教材研究の合い間のティータイムは楽しい。

—精神衛生の重視—

6. 教育活動における保健活動の重要度

- (1) 児童の保健活動は「保健、生活、給食、運動」などの関係委員会を中心に活動を展開、とくによい歯の衛生に努力している。



食 堂 給 食

- 歯みがきカレンダー
- 歯の衛生週間にはポスター、標語などの募集
- う歯治療の奨励—リボン表彰・シール
- 保健だより

(2) 地域社会とPTAの保健活動

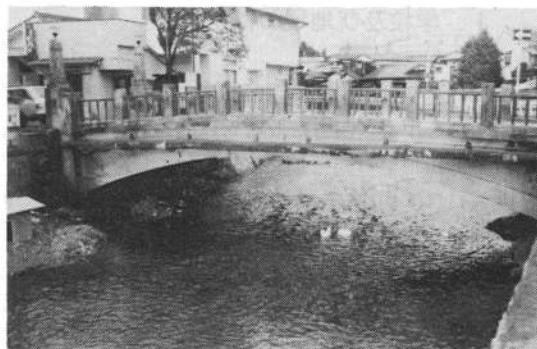
白一坂の下を流れる谷津田川は工場や市民の流す汚物で悪臭の漂う、どぶ川であったが、こゝ数年来、地元の篤志家やPTAの活動により清流と化し、今では鯉が放流され、市民の憩いの場となっている。

7. おわりに

全日本健康優良学校の賞状の文面はわたしたちを賞揚し激励してくれた。

「全国特別優秀校」の名を恥ずかしめないようこれから一層がんばっていかねばならない。

レポートの最後に残された課題として、つぎのようなことを書いた。



谷津田川の清流

- (1) 体力測定を活用
- (2) 運動能力テスト、体力診断テストの活用
- (3) 児童会委員会の活動
- (4) 地域ぐるみの健康教育の促進など



心身ともにたくましい ふくのっ子の育成

—学校・家庭・地域ぐるみで—

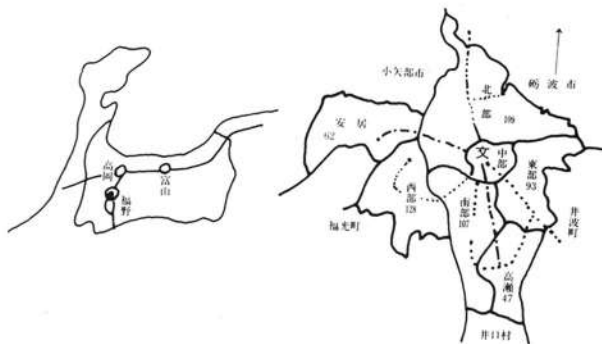
富山県砺波郡福野町立福野小学校

校長 徳永吉正



福野小学校前景

福野小学校の位置と校下概略図



1. 学校及び地域の概況

福野町は、富山県の南西部にある砺波平野に位置し、市街地を中心に四方が散居村に囲まれ、一部 200m 程度の低山地から成立している。

人口は、約15,550人、世帯数は 3,675世帯で、教育機関として、私立幼稚園・保育所 8、小学校 1、中学校 1、県立高等学校 1、県立高等技能学校 1 が主なものである。

小学校は、昭和44年に 4 校が統合して 1 町 1 校となり、現在、児童数 1,372名、学級数は普通学級33、特殊学級 3 で合計36学級の地方における大規模校である。

児童の約40%がバス通学児である。バスは、スクールバス 2 台と町営バスを使用している。

保護者の職業は、村部は米作中心の農業であったが農業構造改善事業の結果、農業従事者が激減し、現在 4.8%になるとともにハウス園芸・酪農・養豚・養鶏と多様化・大型化・機械化した。町部は、昔、織物中心に栄えた町であったが、近年、機械・橋梁・アルミ関係等の近代工業が進出し、職業・職種が多様化・専門化している。

保護者の職業

職 種	%	職 種	%
農 業	4.8	金 融 不 動 産	2.0
林 業	0.2	運 輸 通 信	5.6
鉱 業	0.3	電 気 ガ ス	1.6
建 設	12.8	サ ー ビ ス	7.2
製 造	40.0	公 務	11.0
商 業	10.9	そ の 他	3.6

2. 健康教育推進の経過

福野町の農村は、昭和40年前後に農業基盤整備事業が完成した。その結果、水田は大型化し、機械化され、農業従事者数が激減し、工場誘致等とも相まって他産業に従事する者が増えた。家庭生活においても高度経済成長とともに住宅の新增改築が盛んに行われ、技術革新による新製品が購入され、生活様式は大きく変化した。

子どもの養育についても、生活様式の変化から、どのようにあればよいのかという検討よりは、物を与え、子どもの要求に応じていくという対応の仕方が中心と

なり、祖父母の子守りが一層それを助長した。

この結果、子どもの心身の健全さが問題となり、当校の父母と教師の会が、昭和48年に「子どもの体力つくりと特徴ある子どもの育成策」を学校・町当局へ具申した。このことが契機となって、学校においては体力つくり研究（県指定昭50・51、文部省指定昭51～昭53）に取り組むとともに学校保健安全研究（北陸3県研究会場昭53）にも貢献した。町においては、スポーツ少年団の育成や社会体育施設（町民体育館・町民グラウンド・学校解放の照明施設・勤労者体育館・武道館・児童公園・保健センター等）の充実を図るとともに、昭和52年の6月には町議会において「健康安全宣言都市」の宣言を行い、全町民ぐるみで、健康で明るい町づくりに努める体制が整えられた。



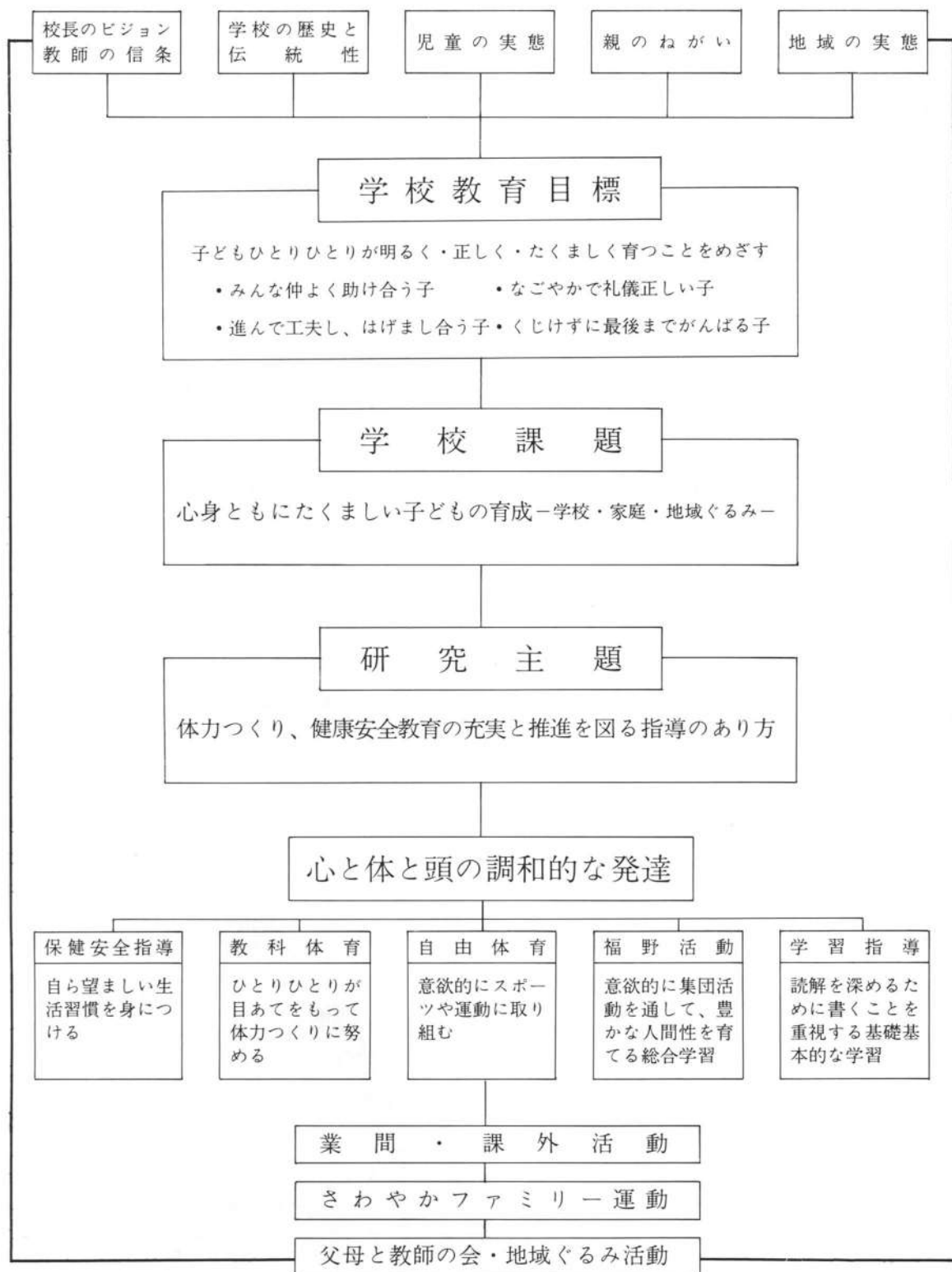
健康安全宣言都市の標示

3. 学校における健康教育の基本構想

学校における健康教育の基本構想は、図のとおりであるが、次の事に留意している。

- (1) 1 町 1 小学校であることから、町行政と一体となった諸行事を推進しやすいこと。
- (2) 大規模校であることから、1 学級当たり人数が多いことや、地域の広がりの大きいことから、ひとりひとりの握や、地域の変化状態の把握が困難。それで、きめ細かい保健安全教育を進めるには、家庭・地域の協力が必要であるとともに、児童自らが自分の手で健康安全に努めることのできるように育てることが大切であること。
- (3) 高度経済成長による生活様式の変化が児童の成長発達に及ぼしている影響を考え、その対策や指導を常に考え、工夫した対策を立てること。

健康教育の基本構想図



4. 特色ある活動

(1) さわやかファミリー

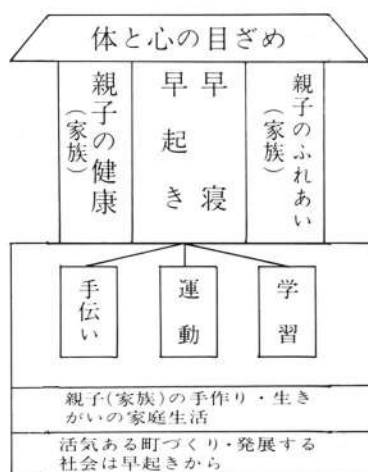
家庭生活や産業構造の変化から、早寝早起きのできない傾向が強くなってきている。そのことで失われたことも多い。そして、それが当然のこととなっているが、このことを見直そうとするのが、この活動である。

毎日、できなくても計画的に何日と何日は、あるいは月のうち何日間かを行うという趣旨の運動である。早寝・早起きは親子のふれあいの時間を持つるようにすることと、あわてないで健康・安全行動を計画的に行えるようにするためのゆとりの時間を保とうとするものである。

勤務や家業の関係から、早寝・早起きができなくても、親子のふれあいの時間を計画的に保っていかうとするのも、この運動の趣旨である。

親子のふれあいは、学習・運動・手伝いの活動を通して行うことにしている。例えば、学校で学習していることを話し合い、家庭生活に役立てることが学習に対する理解を深めあうこと。親子で縄とび・持久走・サイクリング等をしながら体力づくりに努めるとともに、自転車の安全な乗り方・危険地域の理解を深めること。手伝いをしながら物の作り方使い方・仕事の仕方・自然の観察等を行い知っていくこと等である。

さわやかファミリー運動の構造図



児童は、さわやかファミリーノートを持って、実践したことや考えたことを記録し、また、親の感想を書くページも設け、実践記録を残し、学校で発表し合い情報交流し、変化した生活の中で、よりよい家庭生活を工夫するよう努めている。また、さわやかファミリー展を学校で開催し、親子手作り作品やさわやかファミリーの実践記録を展示し、一般社会の啓蒙に当たっている。

(2) 父母と教師の会の特色ある主な活動

- ① 保健カレンダー よい子の12か月を保健厚生委員会で作成し、児童に反省評価を行わせ、生活の習慣化を図る。
- ② 家庭保健の日の設定 隔週の日曜日を実施日とし、計画的に保健の習慣化について反省評価したり、近視の検査や、家でう歯の検査等をしあう。



保健カレンダー



愛校の日の作業

- ③ 通学対策 通学対策委員会がバス停巡視・通学路の安全を図るため巡検し安全対策をたてる。
- ④ 学年合同保健講座 大規模校の特色を生かし、児童の成長発達に応じた保健講座を専門家を招へいして実施する。
- ⑤ 愛校の日 日頃、行き届かぬ場所の清掃や安全点検とその対策を親子ぐるみで話し合い、実践活動を行う。

(3) 児童が自ら行う健康管理

- ① 学級保健コーナーの設置 朝、学校へ来たら、きょうの健康板へ健康状態を表示したり、めあてや反省等をとらえる。保健係は保健室で全校の状態をとらえ比較する。
- ② 学校の12箇所に設置された測定コーナーで体位測定し、自己管理する。



学級保健コーナー

- ③ 目と姿勢の体操の実施
- ④ ワン・ツー・スリー体操の実施
児童の体位・体力の不足を補うために創作したBGM入りの体操、業間や体育授業・行事等の事前に行う。



- ⑤ 業間遊び
ころころ山・低鉄棒・竹馬等の利用による遊びと安全管理。

4. 学校の特色を生かした福野活動

大規模校の教育は、組織的計画的に行わないと、施設・設備・人数・時間等の制約を受けて十分に実施できないことが多い。

そのために、本校では下学年では3時間上学年では4時間の連続の時間を設けて福野活動の時間とし、使用場所や用具等も決めて、実践活動を容易にできるように配慮している。

文化的活動 夜高太鼓の発表



生産的活動 花壇の手入れ



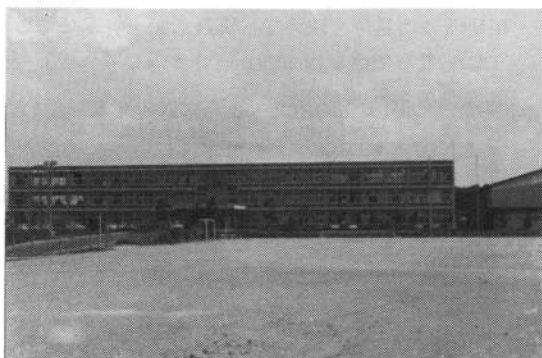
体育的活動 水泳練習



活動内容は、集会活動・生産的活動・文化的活動・野外活動・体育的活動の総合学習で、学年・学級行事と結びつけ、実践している。また従来の学芸会・学習発表会を改めて福野活動発表会として、上記5分野の学習結果を校内外を対象に発表する機会も設けている。

5. 学校医・歯科医との連携

学校医6名・歯科医3名の編制で、学年持ち上がり制で健康診断・相談に当たっている。



校舎全景



鳥取県東伯郡大栄町立大栄小学校

校長 松田 武寿

黒ぼくの大地にたくましく育つ大栄教育

—すなおで、たくましく、心豊かな子ども—

1. はじめに

黒ぼくの大地、ここには「素朴さ」「たくましさ」「根性」がある。私たちは、この偉大なる黒ぼくの大地の、数多くの遺産の上に立って、輝かしい伝統を受けつぎ、次代を背おう「心」も「からだ」も健康な子どもを育成するために、いくつかの活動を試みてきた。

2. 学校の概要

本校は、昭和54年4月、人口過疎化現象に伴う統合のため、従来の三校を統合し新設された学校で、学級数20（特2）、児童数709名の中規模校ぎりぎりの学校である。

大栄町中心部の高台にあり、南に霊峰大山の威容を眺望し、北は日本海の荒海を、眼下に見ることができ

る。軒を並べて、大栄中学校、由良育英高等学校があり、学園台地とも、教育団地とも呼ばれている。またすぐそばに、町民テニスコート、六基の夜間照明灯を持つ町民野球場もある。山陰本線、国道九号線からの騒音もとどかない静かな学園であり、周囲の農地の緑におおわれ、公害もほとんどなく、学校環境としては、申し分のないところである。

3. 地域社会の協力

統合20周年を迎えた大栄町は、いち早く町民の健康、体力づくりに取り組み、保健文化賞・体力づくり組織優良団体として、それぞれ厚生大臣・内閣総理大臣賞を受賞し、地域社会全域をあげて、健康のために取り組んでいる。従って、学校の教育活動には全面的な協力を得ることができる。本年度の健康優良学校特別優

秀校受賞の榮譽は、こうした地域社会の協力に支えられて得たものといえる。

4. 教育の理念並びに児童像

(1) 教育の理念

たえず子どもの現在および将来の幸福につながるものであることを希求し、その実現につとめる。

(2) 本校のめざす児童像

黒はくの大地にたくましく育つ子

○ 粗朴さ（かざり気のないすなおで、心豊かな子ども）

○ たくましさ（すばらしい体と力強さ）

○ 根性（物事をがんばり抜く力）

ア からだをきたえがんばる子

イ 明るく心豊かな子

ウ 深く考えて工夫する子

エ きまりを守り責任を果たす子

エ 仲よく助け合う子

5. 本年度の努力点

- (1) 子どもによくわかる学習の展開と基礎能力の充実（全員発言、児童を全面に出す指導法の改善、教育機器並びに室の利用と学習の意識化）
- (2) 健康教育の推進（体力づくり、体位の向上、健康相談の実施、自主的な保健活動、保健指導・保健学習の系統化焦点化、スポーツ育成会への積極的参加）
- (3) 同和教育の充実（6年生に社会的立場を明らかにする、仲間づくり、地域学習会の効果的運営、関係教科の指導充実）
- (4) 教育課程移行措置の完全実施（移行内容のチェック、創造性のある子どもの育成、学校裁量活動の先導的実践）
- (5) 生徒指導の充実（大栄小の子どもという誇りをもつ、善悪の判断力の養成、あいさつ運動と児童理解、上下学年の秩序と思いやり、緑の腕章活動、ボランティア活動、愛校日の特設）

6. 実践の経過

本校が本格的に健康教育に取り組んだのは、昭和52年度からである。

初年度は、統合条件であったスクールバス利用のため、脚力の低下がみられるようになり、何をにおいても体力づくりが大切と、積極的な鍛練面と、虫歯の予防、近視予防等の消極的な健康面の活動が、中心的なものであった。（鳥取県1位受賞）

2年目（昭和53年度）は、前年度の計画の上に立って、能動的に自分のからだを鍛えねばという意欲を持ち、自分だけでなく、家族ぐるみの体力づくりへと広がっていったが、まだまだ、十分な健康教育の成果とはいえなかった。（鳥取県1位受賞）

本年度は、さらに、積極的な体力づくり、自主的な保健管理と相まって、心の健康、即ち精神衛生的な自立を願い、よい習慣を身につけることによって、自分の生活を望ましい方向に切り開いていこうとする態度を、身につけさせるように配慮した。

（鳥取県1位受賞）

（中規模校全国特別優秀校受賞）

7. 本校の特徴的教育活動

子どもたちが、喜びと夢を持ち暮しを築きあげる生活を生み出すために、各種の試みを実施してきた。そしてできるだけ、自主的に運営できるよう、児童会、児童保健委員会の手にはたねることによって、目的達成を考えてきた。



しょうぶ相撲大会



ジャンボどんど祭

(1) 仲よし活動（学校裁量活動）

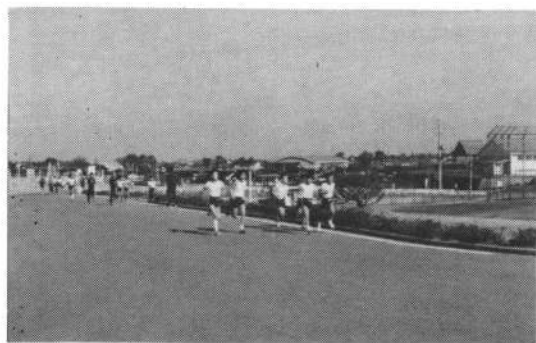
仲よし活動実施計画案

月	活動名（時間）	月	活動名（時間）	月	活動名（時間）
4	ようこそ1年生（2）	8	一人一研究（2）	12	たこあげ大会（2）
5	こいのぼり（2）	9	敬老の日（2）	1	どんどこまつり（2）
6	ふるさとめぐり（4）	10	にぎりめし写生会（6）	2	雪まつり（2）
7	七夕まつり（2）	11	学校祭	3	ありがとう6年生（2）

子どもに喜びと夢を持たせ、心豊かな大栄の子を願い、学校裁量活動の先導的試行として、上記したような活動を取りあげ、全学年、全児童参加し、いわゆる手づくりによるこいのぼりやたこなどをもちより、楽しいひとときを過ごす。自分の力で、物をつくり出す力を身につけたり、自分たちの生活を見直し、物を大切にする気持ちを育てたり、心と心をかよい合わせる機会とし、月平均2時間を仲よし活動の時間にあてている。

(2) 太陽の時間の運営

毎日10時30分から10時55分までの25分間を、体力づくりの時間とし、さんさんと輝く太陽の光を浴びる時間を考えた。内容としては、ラジオ体操、遠近凝視訓練、持久走、自由運動を取り入れ、走力の向上や、技能面の向上を意識させ指導している。雨天時は、室内での体操、遠近凝視訓練、朗読を聞く等々、からだと心を豊かにするよう、運動のローテーションなり、場の設定に配慮している。



持 久 走

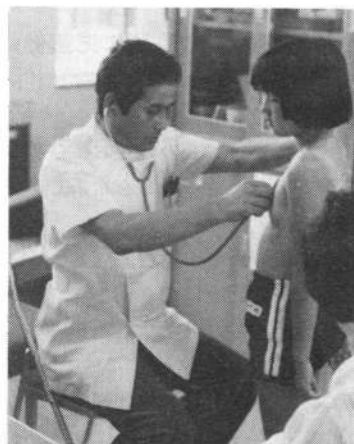
(3) がんばり活動

はくたちの学校は、はくたちでを合言葉に、朝登校すると直ちに委員会活動の奉仕作業に、学級の係活動に、自学自習に、それぞれ目あてを持って取り組み、お互いに励まし合い、生活を向上させるようにしている。また、6年生は、最高学年として、各

クラスより男女各一名ずつ緑の腕章活動として、児童の自主性によって奉仕作業を続けがんばっている。

(4) 健康観察と健康相談

子どもの健康状態をいち早く把握するために学級担任は毎日の健康観察表でひとりひとりの状態を掌握し異常者は、養護に連絡をとる。養護は早速に、随時相談の上的確な指導をする。



健 康 観 察

それらの異常者や、肥満、るいそう児の継続相談が校医の積極的な労力奉仕によってなされる。毎月一回、消極的な防衛面だけでなく、積極的な体力づくりの処方から、心の健康まで、生活全体の向上に役立っている。

(5) 家庭地域の保健活動と体力づくり

家庭ぐるみ、地域ぐるみで行っている保健活動として、まず、家族で取り組む歯みがき運動、親子マラソン、家族ぐるみの駆虫、地域での夜間マラソン、親を対象とした保健研修会、町の保健課とタイアップした地域への呼びかけ有線放送、広報による啓蒙がなされ、受賞の大きな原動力となっている。

(6) テレビ朝会

県下でも有数な放送スタジオを持っている本校では、水曜日の朝会を各教室にあるテレビに、スタジオから放映し、その日の健康生活への呼びかけ、各委員会での催しもの、注意等々、子どもの一日の生活を築き上げ、豊かな心を育てる一環として楽しいふんいきを盛りあげるものとして、取り組んでいる。

(7) 学校保健委員会と児童の保健活動

学校保健委員会は、昭和50年統合以来、毎年5回から6回開き、いろいろな問題について協議を重ねてきた。（1例として、脚力の向上で、スクールバスの停留所の削減、虫歯の治療100%、ミラノール洗口による虫歯予防、はだし・うすぎの習慣化、バランス食の励行と牛乳1本、小魚3びき運動等々、数えあげるときりがない）保健委員会での協議内容は、地域、家庭への啓蒙はさることながら、各学級全員に周知徹底をはかり、健康コーナーを経営し、

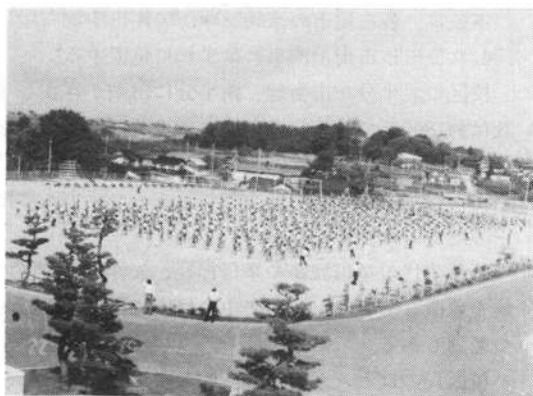
自己の体のようすを見直したり、自分の生活を反省したり、絶えず、より健康なからだと強い心を育成すべく配慮されている。また、個人から町全体への連帯意識の高まりを考え、各種の問題解決の対策を協議している。



スタジオ（テレビ朝会）

(8) スポーツ育成会の活動

体力と根性、忍耐力の育成をねがって昭和53年6月に結成された。保護者が中心となり、保護者の中で指導者を依頼し、4年生以上参加のもとに、9部編成（バレーボール、バスケットボール、剣道、柔道、水泳、陸上、野球、バドミントン、卓球）によって、あくまでも、基礎体力の養成、継続の根性、忍耐力を身につけることで実施された。本年度は、昨年度の実績をふまえ、少しずつ対外試合を経験させ、他校の児童との交流と自己反省と、練習に取り組む態度の変革を期して一週間に2回ないし3回の課外活動に取り組んでいる。



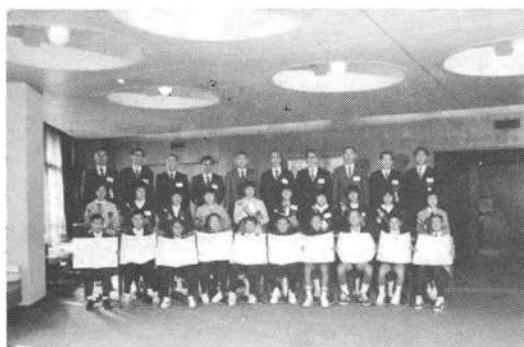
広大な運動場でラジオ体操

8. おわりに

11月3日の表彰式の表彰状の中に

「あなたがたの学校は、教職員と地域の人びとが協力し、独自の工夫と努力で、心もからだも、すこやかな児童を育てています。とくに保健医療機関との緊密な協力体制のもとに、郷土の自然と文化的な伝統をふまえた、健康教育の実践は、他の学校の模範であります」

と盛り込まれている。私たちはほんとに微々たる歩みであったが、努力が認められたという喜びと同時に、私たちの歩んで来た道に間違いがなかったと、痛切に感じている。しかし、私たちの営みはまだまだほんの緒口にすぎない。受賞を契機として、これから、真の人間づくりが始まるのだと、心し今後、健康な生活を基盤とした、黒ぼくの大地に、しっかり根を下ろし、さらに、たくましく育っていく子どもを目ざして、頑張っていきたいと考えている。



全国優秀校10校の代表（校長と児童代表）



朝日講堂における表彰式参列者

（朝日新聞社提供）



愛知県豊田市立元城小学校

教 頭 根 本 悦 夫

光豊かでたくましい子を育てる元城教育

—— 自ら進める生活づくり ——

1. はじめに

8年前、開校当初の健康診断で、体位が県平均を下回り、体力では筋力・柔軟性について劣っていることがわかった。そして、根気・活気・協調性がもっと欲しい。また、放課などに運動場の真ん中を使って遊ぶ児童が少ないという特異な姿が見られたりして、何よりも「たくましく生き生きとした子どもにしたい」と願ってはじめて「健康でたくましい元城っ子」の育成が、それ以来一貫して元城教育の基本的な目標となっている。

2. 実践の足跡

(1) 第1期〈47～49年度〉

健康管理を中心に進め、けん案を逐次整理、体力づくりと保健活動の歩みを組織的に進めるに至った。

(49年度 愛知県特選受賞)

(2) 第2期〈50～52年度〉

意欲的な体力づくりの姿勢を求めて、記録、累積、表彰、遊具で楽しみながらの体力づくりなど、いろいろと試みてきた。

うす着、歯みがきも定着、保健指導、保健学習も充実して、掲示などにも工夫が認められるようになった。

家庭では、照度の測定、マラソンやなわとびなどの体力づくりが行われるようになった。

(50、52年度 愛知県準一位受賞)

(3) 第3期〈53、54年度〉

「心の健康」を問いはじめて、これを、児童が物事に対処してひるまず、自らの力で解決し、自らの生活を築いていく基盤となる力としてとらえ、道徳や特別活動を充実してきた。特に児童活動では、児童の手で運営できる行事を計画、「自ら進める生活づくり」を実践してきた。

家庭、地域への働きかけも、児童の積極的な活動とPTAの強力な推進によって、その浸透を図ってきた。

(54年度 全国・愛知県特別優秀校受賞)

3. 地域社会の概要

本校は、名古屋市の東約28km、矢作川中流右岸に発達した豊田市市街地南東のはずれに位置する。

校区の北半分が市街地、南半分に田畑が存在し、戸数は約1800戸である。その中に市役所、県事務所をはじめ主要な官庁、病院、金融機関、商店、あるいは名鉄三河線、国道153、155、248号をもつ活力ある市の中心地である。

幕藩時代の^{ころも}挙母城跡や挙母神社、矢作川が校区の伝統を象徴しており、商店の中には、200年の伝統をもつ老舗もある。

校区民のほとんどは、こうした中で生まれ育ち、その自覚と誇りをもち、学校教育への協力にも数々の事業となってあらわれている。

保護者の職業は、商業・自営が半数近くあり、工業

都市化にともない勤め人も多い。P T A 活動は、学校・家庭・地域それぞれにおいて、極めて積極的に活動している。（52年度に県P T A大会で「保健活動を通じ親子のふれ合いを求めて」発表、53年度に県P T A連より「家庭教育をみなおそう」運動の推進で表彰を受けた）

4. 学校の概要

本校は、昭和47年4月に、マンモス化した小学校から分離・独立した中規模校である。開校以来児童数に大きな変動はなく（54年度は12学級 450人）、これから先5年間もこの状況のようである。

(1) 教育目標

自主的で人間性豊かな心身ともに明るく健康な子どもを育成する。そのためにめざす児童像をつぎのように設定する。

ア、健康でたくましい子

イ、豊かな感情と、実行への勇気をもつ子

ウ、よく考え、進んで学ぶ子

エ、なかよく助けあう子

(2) 重点努力目標

ア、いのちを尊び、心身ともにたくましく活動する子を育てる。

○自分で守る保健・安全意識の高揚

○心と体の健康相談

○病気の子防・早期治療

○自主運営による元城走行

○体育行事の充実

○汗を流す体育授業

○ひまわりタイムの充実

○正しい姿勢

○「元城小よい子の一日」の実践

（歯みがき、手洗い、うがい）

イ、連帯協力の意識を高め、思いやりの心や責任感を育てる。

○生き生きとした学級づくり

○自主性を伸ばす児童活動

○働く喜びを育てる勤労作業

○楽しさあふれる給食時間

○豊かな心を育てる読書活動

ウ、確かな指導をめざし、喜びと充実感のある授業を展開する。（説明略）

エ、教育環境の整備と施設用具の活用、点検の管理につとめる。（説明略）

オ、地域の人々や諸団体との連帯の輪をひろげ、指導効果を高める。（説明略）

5. 特徴的な活動

健康教育にとり組んで進めてきた活動には次のようなものがある。

(1) 生活を高め合う活動

○元城菜園の経営

土を耕し、種をまき、水をかけて作物を育てる喜びと進んで働く喜び、勤労の尊さを体験させる。



元城菜園でのじゃがいも掘り

○ボランティア活動の推進

公共施設や学校周辺などを「いつも美しく」というテーマで清掃活動を行い、地域のために役立つ心を高める。

○体験発表会の実施

生活記録の中から、あるいは研究、体験、実践したことなどを自由に発表し合い、子どもたち自身の研修の場とする。



体験発表会

○「私たちの暮らし」の活用

くらしのガイドであり、保健や運動のメモであり、家庭との連絡帳である。これを活用してより良い生活を築く。

○ひまわりセンターの活用

資料や器具を展示して、保健・体育意識の向上を図るとともに、自分たちの手で生活を築く励みとする。

(2) 豊かな心を育てる活動

○楽しい給食の工夫

学級で、通学団で、あるいは他学年の学級を訪問して、楽しい給食の中に心のふれ合いを深める。

○オアシス運動の浸透

おはよう、ありがとう、しんせつ、すみませんと素直にあいさつができ、おもいやりのある心を育てる。



訪 問 給 食

○時宜にかなった各種の集会活動

- ・音楽集会——全校で歌い、よりよい人間関係を育てる。
- ・テーマ集会——七夕、お月見など昔からの行事を大切に作る心を育てる。
- ・ありがとう集会——お世話になった人へ感謝する気持ちを育くむ。



七 夕 集 会

○読書運動の推進

本を読み合って心の目を育くみ、生活にうるおいを持たせる。

(3) 体力の向上をめざす活動

○ひまわりタイム（業間）の充実

全校運動、学級トレーニング、伝承遊びなどを通して体力づくりに励む。

○元城走行（持久走）の推進

業前に行うかけ足で、進んで体力づくりに励み、最後まで走りぬくたくましさを培う。

○体育施設の活用

元城タワーを中心に、各種の遊具で遊びを通して楽しみながら体力を養う。



元城走行（業前の持久走）



ひまわりタイムの学級トレーニング

体育施設で遊びながらの体力づくり

ひまわりタイムの学級トレーニング

楽しみながらの体力づくり



(4) よい習慣を身につける活動

○食後の歯みがきの励行

給食後に歯みがきをし、むし歯予防の徹底を図るとともに、食後歯みがきの習慣を身につける。

○3ゼロ運動の推進

むし歯とけがと残菜を0にして、健康な体づくりに心がける。

○うす着の定着化

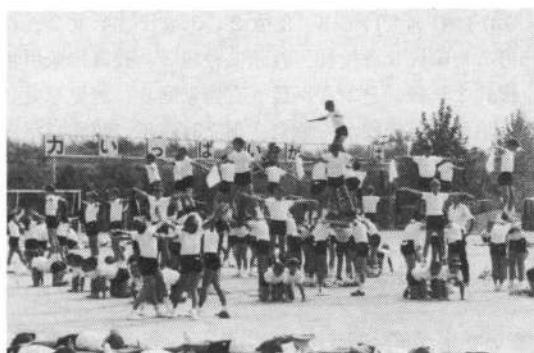
健康な体で過ごせるよう、うす着でがんばる習慣を身につける。

○健康体操の習慣化

体のつかれをほぐし、さわやかな気持ちで学習にとり組む姿勢を培う。

○「元城小よい子の一日」の習慣化

日課の実践、規律正しい習慣を身につける



ひまわりタイムの全校体操

(5) 地域とすすめる活動

○学校保健大会

PTAを中心に、地域と一体となって、保健、体力づくり、読書などの実践のようす、体験の発表、努力点の啓蒙など、健康な子どもたちの育成に努める。

○親子読書

親子が共に読書し合い、語り合い、人間的な豊かな心を培う。

○親子体力づくり

家庭において、親子で走ったり、体操、なわとび、乾布まさをしたり、あるいは作業したりして体力づくりに励む。

○校区民カーニバル

校区民が一体となって、より良い人間関係の育成に努める。

○足型マーキング運動

交通安全を目標（道路へのとび出しストップ）に、自分の生命を守る意識を高める。

6. おわりに

今回、全国特別優秀校の栄誉をいただき、私ども関係者にとってまことにうれしいことである。しかし、決してこれで良しといえるものではなく、真の健康教育はこれからであると、賞を得て心を新たにしている。

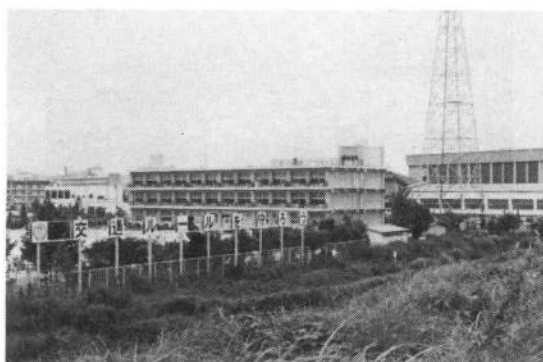
開校以来、健康教育を軸に教育活動を展開して、PTAはじめ地域の強力なバックアップがあり、今、知・徳・体・労の調和のとれた人づくりに向けて軌道にのりだしたところといえる。

しかし、課題はいくらでも存在する。一口に、例えば体力づくりといっても、子ども個々に応じたきめの細かい指導は常に心がけなければならない問題である。

体を使っの体験的な活動は、新鮮な驚きや喜びの感動を覚え、お互いの心のふれ合いができる。これは知識では得られないすばらしい教育効果が期待できるもので、今日の教育に最も欠けている面でもあり、いっそう強力にすすめたい。

家庭や地域における保健、体力づくりの輪は、同時に心の健康も携えて、しだいに広がってきているが、学校が核になってもっとその輪を広めていきたい。小中一貫した活動も充実して、さらにいっそう強力に展開していきたい。

私たちは、開校以来の実践の中で、健康教育こそ基本的で地道な教育そのものの姿であると確信し、この信念のもと、地域の認識をいっそう深め、たゆみない元城教育の実践を重ねていきたい。



交通安全標語のある校舎展望

全児童8名、健康優良学校になって



鹿児島県伊佐郡菱刈町立南永小学校

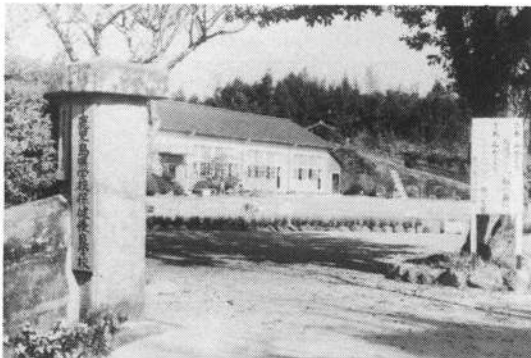
校長 秋 丸 忍

1. はじめに

本校が全日本健康優良学校特別優秀校（小規模校の部）の栄誉を受けようとは、全く予想もしなかった。それだけに感激もまたひとしおであった。東俊郎審査委員長は表彰式において、その審査報告の中で、児童数が少ないのだから、何かといき届くのは当然という考え方と、極小規模校なるがゆえに、その困難も大きいという二面から審査したと報告され、54年度から改革された三規模制（大、中、小）のひとつの象徴でもあると述べられた。

今回、その栄誉に浴したわけであるが、全国と同規模校への刺激ともなり、ますます健康教育が推進されていくことを願いつつ、わたしの学校の健康教育の実践を、ささやかで、ごく、ありふれた歩みであるけれども、その一部を紹介したい。

2. 学校の概要



学校の全景

鹿児島県の北部、熊本県よりの標高、300の山あい

ある辺地校。鹿児島県の北海道と言われるだけあって、冬はかなり寒い地方。学校は県道より約1キロ入りこんだ所にあるが、町の中心部から9キロ離れ、卒業生は7キロの道のりを自転車で中学へ通学する。多い時は82名の児童がいたが現在では過疎が進み、児童数わずかに8名（1.男1、2.女2、3.女1、4.女2、6.男2）、職員5（校長、教頭、教諭2、養護婦兼用務員）複式3学級、PTA戸数（有児家庭6、無児家庭46）

昭和22年分校から独立、創立34周年、昭和47年、校庭全面に芝生を植える。夏季は緑のじゅうたんになり、冬季はたたみをしきつめたようである。

3. 今日までの歩み

(1) 昭和51年度（児童数15、複式2学級、職員4）

研究主題

「自発性を育てるための極小規模校における組織的活動」

辺地の少人数の学校ほど、組織的な運営と活動が大事であるという見地から、特別活動の児童活動の領域について研究を進めた。児童会活動のねらう自主性、自発性の育成は、本校の健康教育の現在に大きく連なり、現在の児童保健委員会活動の基盤ともなった。この年は委員会活動の中に「保健運動委員会」というのを設け、（早朝マラソン、うす着、容儀、乾布まさつ、うがい、歯みがき、遠望訓練など）委員会活動の一環として実践させるようにした。

(2) 昭和52年度（児童数9、複式2学級、職員4）

研究主題

「辺地の小規模校における“健康づくり”、“体力づくり”」

前年度、研究実践してきた「組織化された児童活動」を実践の母体としながらこの年は全人教育という視点から「健康づくり」「体力づくり」というこ

とを取り上げた。前年度のものを継続し、また先進校の研究実践のものも取り入れて実施した。

(3) 昭和53年度（児童数7、複式2学級、職員4）

研究主題

「望ましい“学級指導”」

前年度の事柄も継続しながら、「特別活動」の指導の総ざらえということで、「学級指導」の分野を取り上げて研究。

(4) 昭和54年度（児童数8、複式3学級、職員5）

研究主題

「辺地における“健康づくり”をめざした実践的態度を育成するための保健指導」

——主としてむし歯予防対策を通して——

学校保健については、特に52年度において「健康づくり」「体力づくり」をテーマに掲げ、一応の成果をみたが、まだ、それが日常生活化するまでの習慣化とまでは程遠く、また、本年度から来年度にかけて、県の「むし歯予防推進校」として研究協力校の指定も受けたこともあって、児童が生涯を通じて、自分の体は自分で守るという習慣や態度を養成するという事で本テーマを設定し、健康教育を実践してきた。

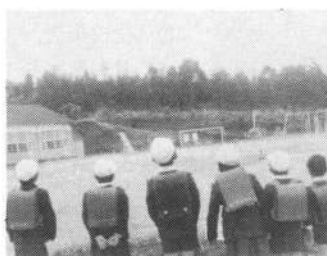
4. 本校の主な受賞

- 昭和46年度 南日本花壇コンクール入選
- 昭和50年度 南日本花壇コンクール入選
- 昭和52年度・県学校保健準優良学校
 - 〃 ・南日本花壇コンクール入選
- 昭和53年度・県学校保健優良学校
 - 〃 ・南日本花壇コンクール入選
 - 〃 ・県学校緑化コンクール優良校
 - 〃 ・地区交通安全優良校
- 昭和54年度
 - ・全日本健康優良学校特別優秀校（小規模）
 - ・県学校保健優良学校
 - ・県学校保健モデルスクール
 - ・南日本花壇コンクール入選
 - ・県学校緑化コンクール優良校

5. 現在の1日の学校生活の様子

(1) 制服で登校

制服を定め、清楚、清潔感ということに重点をおき、手足、体、シャツ、くつ下等の容儀検査を

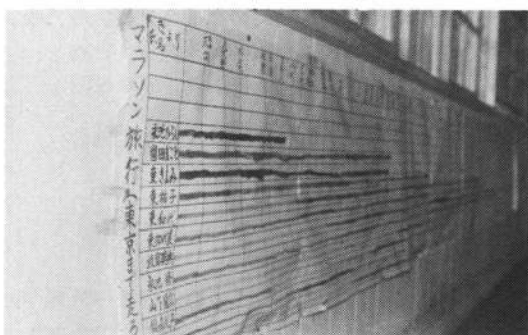


児童保健委員会で自主的にやっている。

- (2) 朝の遠望訓練
校門を入ったら凝視板を見る。
近視予防の意識づけのために。

(3) マラソン旅行

登校後すぐ校庭を走る。一年中続けられ、走行累計を「東京まで走ろう」の表に記入。児童保健委員会で実施。厳冬期を除き、はだし、はだか。



(4) 乾布、冷水ま
さつ

マラソン旅行が終わると、乾布、冷水まさつ（時期により違う）氷点下の気温の時でも欠かさない。おかげで、ほとんど全員かぜには強い。

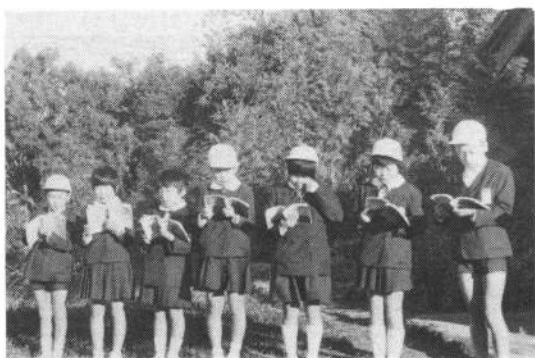




(5) 全校集会
月～土まで、
朝15分間、そ
の一部
ア、(木) 全校
音楽
全員で鼓隊
の演奏。

イ、(金) 全校朗読 (青空朗読)

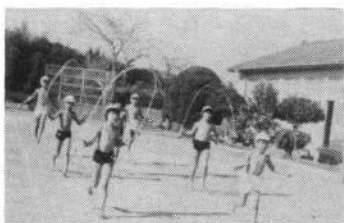
校区の見渡せる学校裏の高台で、大声で国語の教科書を朗読する。



(6) 仲良し体育 (2、3校時の業間時) 夏、冬、曜日によって種目は違う。厳冬期を除き、はだし、はだか。



ア、固定施設



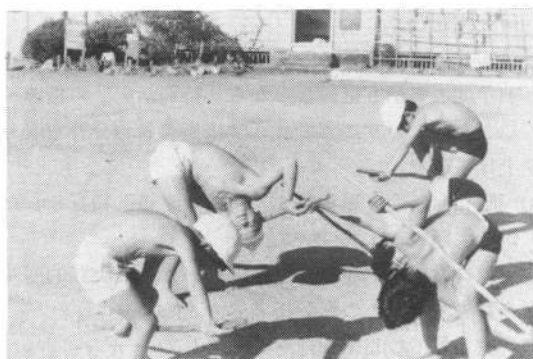
イ、なわとび
(級を設けて)



ウ、バランスタイ
ヤと竹馬
平均運動、脚力、
腕力等を養う
ために。

エ、棒体操

柔軟な体をつくるために棒をくぐりぬける。



(7) うがい

仲良し体育後、塩水うがいを習慣的にやっている。

(8) 授業風景

ひとり学習の時もある。1年、3年はひとりだけ。



(9) 給食後の歯みがき

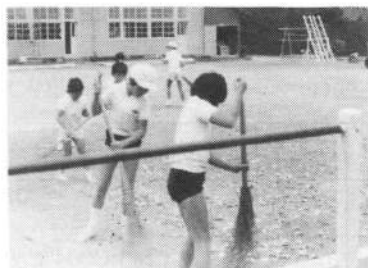
10年前から続いている。県の「むし歯予防推進校」の指定ということもあって関係機関の指導も受けながら実施。



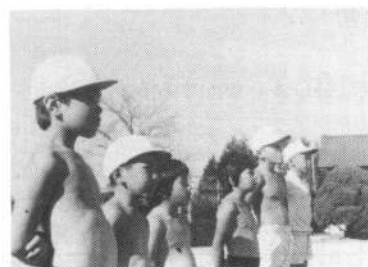
(10) 歯のコーナー
昼休み



- (11) タイヤ、クライミングは、たいへん人気があり、休み時間等、よく使われる。このためか、背筋力がついてきたようだ。



- (12) 作業
少ない児童で、広い校庭、教室の作業。これも全人教育の場である。夏期は校庭の雑草とのたたかいともなる。



- (13) 昼の遠望訓練
遠くの山を見つめて5分間。4月入学した1年生の

両方とも0.4が0.9と0.8まで回復した。このためばかりでないだろうが。他は全員1.2以上。

- (14) ゆとりの時間

みんなで、しめなわづくり。



6. その他の保健活動

- (1) 児童保健委員会

保健班、運動班の二つの班がある。計画、実践、反省と毎日開かれる会で自主的に運営されている。

- (2) 学校保健委員会

毎学期1回開く。校医はじめ、保健所、町役場の保健課、教育事務所、校区内の役員、父母等欠かさず参加していただいて学校保健の活動が進められている。

- (3) 地域、家庭ぐるみの保健活動



写真は、児童のいる家庭（未就学児を含む）に設けられた鉄棒。このほか地域住民の保健指導に関係機関との連携をとりながら、学校とのかかわりあいにおいて、移動保健所の要請とか、老人、婦人の健康相談とか実施しつつある。

7. おわりに

本校の健康教育について、その一部ではあるが、この学校でもやっているようなことを、具体的に実践していることについて紹介した。子ども、教師、父母が一体となって、継続して実行し、日常生活化して豊かな心をもった、心身ともに健やかな子どもを育てるべく、微力ながら努力していきたいと思う次第である。

保健室だより

千葉県千葉市立稲毛小学校

養護教諭 高梨輝子

1. はじめに

本校は創立以来 107年と歴史は古く、校区は従来農村地帯だったが、最近では徐々に住宅街化している。また本校は国鉄、私鉄の沿線にあるため、夏の水泳時には屋上のプールから電車がよく見え、また電車からもプールの様子が見えるなど、気持ちのよい環境にある。

54年度は算数、体育の研究推進校(市)となり、毎日体育館と運動場で体育の授業が行われていたが、そのためか、けがや骨折も多かったようである。

例年、保健室では児童の健康状態を統計にとり、今後の参考資料としているが、以下の報告は昭和53年度における本校児童(712名)の健康についてまとめたものである。

2. 体位・体型

(1) 体位

体位は、全国、千葉県、千葉市の各平均と比較してもほぼ同程度で、健康優良児童、歯科健歯児童の表彰、陸上大会での記録などをみても決して劣ってはいない。

(2) 体型

肥満型(ローレル指数 145以上)と細長型(同 114以下)の人数は下表のとおりである。肥満型は男女共に少なくない。細長型は男子より女子に多く、女子も高学年に多い。

表1 肥満型 (人)

学年 男女別	1	2	3	4	5	6	計	合 計
男	9	3	4	6	3	6	31	66 (9.3%)
女	12	4	4	6	6	3	35	

表2 細長型 (人)

学年 男女別	1	2	3	4	5	6	計	合 計
男	2	8	18	11	17	21	77	174 (24.4%)
女	8	6	16	15	32	20	97	

3. 疾病・異常

(1) 近視

近視、仮性近視は特に多いようである。

表3 視力 0.1～0.9 (人)

学年 男女別	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	計	合 計
男	5	3	5	8	5	8	9	11	15	69	145 (20.4%)
女	2	10	7	8	6	4	14	5	20	76	

視力低下の対策として、本年度は、保健指導部会や学級での指導、朝会での目を守る体操による全校指導など特に力を入れたので、児童には多少なりとも理解できたと思われる。

上記の視力異常者には再検査するよう保護者へ依頼したが、全員が検査をうけ、そのうち6名に異常がなく、25名が治療(矯正)をうけた。

(2) う歯

表4 う歯被患率

	男	女	合計
健 歯	9人	6人	15人 (2.1%)
処置歯	39	28	67 (9.4)
未処置	315	315	630 (88.5)

痛みださないと治療をしないというのが実状である。
C1、C2くらいのうちに治療させたいが、この点保護者の理解が必要である。

(3) 耳・鼻・いん頭

被患者は比較的少なく、全校で76名（10.7%）だが、そのうち治療を受けた者はたったの2名で残念だった。

4. 欠席状況

本年は暖冬のせいか流行性ピールスによるかぜは少なく、全校なわとびの効果もあったのか欠席も少なく、多いクラスで1日4名だった。市内の他校ではもっと多いとの声も聞いた。

(1) 疾病別

- | | |
|----------------|------|
| (1) かぜ、発熱、頭痛 | 772名 |
| (2) 腹痛 | 110名 |
| (3) 出校停止 | 102名 |
| (4) 原因不明（連絡なし） | 95名 |
| (5) その他 | 90名 |

（欠席の多かった12～2月の3ヵ月の集計）

かぜによる欠席が一番多いが、睡眠不足（夜ふかし）偏食、運動不足、汗のしまつ、衣服のよごれなどにつき指導した。出校停止は麻しん、耳下腺炎、水痘による。

(2) 月別

一番多いのが2月(478名)で、12月(411名)、1月(280名)の順であった。

5. 校内に発生した疾病・傷害

(1) 疾病

多い順では頭痛、胃腹痛、気持が悪い、で全体の84.5%をしめた。最近、気持が悪いと訴える者が多く、その原因を調べてみると、睡眠不足、朝食をとらない、偏食、有色野菜が少ない、などが考えられた。

宿題や学習用具を忘れたり、給食のにおいて体の調子を悪くして保健室を利用する者もいる。

表5 疾病別 月別発生件数 (人)

疾病名	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	計
頭 痛	9	17	18	11	14	16	14	17	19	19	154
発 熱		1	5	2	5	6	5	8	4	3	39
胃 腹 痛	10	12	13	7	11	8	7	8	13	11	100
気持悪い	13	13	10	3	8	8	11	13	4	7	90
貧 血	1	1		1			1	1	1		6
そ の 他		5	3	2	1	2			1	4	18
計	33	49	49	26	39	40	38	47	42	44	407

(2) 傷害

多い順では擦過症、切傷、打身で、全体の77.1%をしめた、擦過傷の原因は校庭でころんだが一番多く、狭い場所での遊び合いや気持の安定していない場合などが多いようである。

表6 傷害別 月別発生件数 (人)

傷名	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	計
擦 過 傷	35	74	45	23	22	45	47	23	14	19	347
切 傷	34	19	13	12	15	20	35	14	13	15	190
打 身	22	16	9	1	11	16	13	6	12	15	121
つ き 指	12	8	3	1	4	4	7	4	5	2	50
刺 傷	5	4	9	3	1	10	9	1	9	11	62
鼻 血		2	9	3	8	2	2	1	1	1	29
虫さされ		5	1	3	1	3	1				14
筋 肉 痛		2	1		1	1	5	1			11
そ の 他		1	3	4	5	8	3	1		4	29
計	108	131	93	50	68	109	122	51	54	67	853

曜日別では金曜日（9件）が多く、木曜日（8件）、水曜日（6件）がこれにつぐ、週末は疲れから精神的にも不安となり、学習にも身が入らず、けがをする結果となると思われる。

(3) 学校安全会災害状況

発生件数は昨年より3件多い34件を数えたが、それらの大要は下記のとおりである。

- | | |
|------------|------------|
| ア 災害別 | ウ 天候別 |
| ① 骨折 14件 | ① 晴 27件 |
| ② 挫 創 9件 | ② 曇 6件 |
| ③ 捻 挫 6件 | ③ 雨 1件 |
| ④ その他 5件 | エ どんな時 |
| イ 曜日別 | ① 休憩中 16件 |
| ① 水、金 各15件 | ② 体育授業 13件 |
| ② 木 8件 | ③ 放課後 3件 |
| ③ 火 6件 | ④ その他 2件 |
| ④ その他 5件 | オ どこで |
| | ① 校舎外 25件 |
| | ② 校舎内 9件 |

6. おわりに

以上から感じたことは、まず、一人一人の児童が健康に対して自覚を持つことであり、自分の体は自分で管理するといった指導が必要ではないかと思われた。

全国特別優秀校

大規模の部（19学級以上）
同
中規模の部（7～18学級）
同
小規模の部（6学級以下）

福島県白河市立白河第一小学校
富山県東砺波郡福野町立福野小学校
愛知県豊田市立元城小学校
鳥取県東伯郡大栄町立大栄小学校
鹿児島県伊佐郡菱刈町立南永小学校

全国優秀校

大規模の部
同
同
中規模の部
同
同
小規模の部
同
同
同

青森県八戸市立柏崎小学校
福井県武生市立武生西小学校
静岡県浜松市立相生小学校
島根県出雲市立神西小学校
三重県度会郡南勢町立五ヶ所小学校
山形県東田川郡立川町立狩川小学校
青森県上北郡七戸町立野々上小学校
新潟県中頸城郡柿崎町立黒川小学校
石川県珠洲市立東若山小学校
神奈川県足柄上郡山北町立三保小学校

都道府県代表校代表

大規模の部
中規模の部
小規模の部

北海道伊達市立伊達小学校
山梨県中巨摩郡櫛形町立豊小学校
岡山県倉敷市立連島北小学校

健康づくりに！ カワイのビタミン剤

カワイ肝油ドロップ

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位

カワイ肝油ドロップC22

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 ビタミンC 20mg

カワイカンエドロップM

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 リン酸水素カルシウム 65mg

アドロップ[®] C

1粒中 { ビタミンA 2,000国際単位
 ビタミンD₂ 200国際単位
 ビタミンC 30mg

給食
強化剤

アドリッチ

1g中 { ビタミンA 50,000国際単位
 ビタミンD₂ 5,000国際単位

カワイ肝油ドロップC20

1粒中 { ビタミンA 1,000国際単位
 ビタミンD₂ 100国際単位
 ビタミンC 20mg



河合製薬株式会社
東京都中野区新井2丁目51-8